

## 検診における胸部・胃部併用車の導入効果について

○原田 博、亀山 欣之、半澤 俊和、遠藤 潤  
公益財団法人福島県保健衛生協会

### 【はじめに】

今春から、当協会に胸部と胃部のX線装置を搭載した胸部・胃部検査併用検診車が導入された。これは県民の健康を守ることを目的として宝くじの助成金を用いて作成された車輦である。車内には最新の検査機器が設置され、高精度・低線量での検査が可能になった。従来の検診車とはレイアウトが異なり、検診会場での導線や検診車を維持するためのコスト、人の配置などの面で本車輦導入により得られた効果が大きかったので報告する。

### 【胸部・胃部検査併用検診車の仕様】

従来の検診車は、乗車時に入口が狭く急な階段を昇降せねばならなかったため、入口部を1.65倍に広げ、階段の高低差も減らした。内部は胸部待合と胃部待合をアコーデオンカーテンで任意に区切ることができるようにし、着替え場所もカーテンで仕切った。照明はLED化することにより明るくし、待合室と撮影室間も段差のないスロープにした。

### 【導入効果と考察】

併用車の入口部が1.65倍に広がり、階段の高低差も少なくなったので安全に配慮した設計になった。着替えはカーテンで仕切られているので、プライバシーが保護され、安心して受診できる。また、胸部で着替え、そのまま移動して胃部検査ができるので、着替えが1度で済むという利点がある。照明を多数設置したので、待合室が明るく清潔感が増し、快適に検査までの時間を過ごすことができるし、スタッフの業務もスムーズに行える。胃部撮影室への段差がなくスロープ状になったので躓くことなく、安心して検査室出入りすることができる。

本検診車は、1台で胸部・胃部の検査を同時にできるので、稼働検診車数の減車が可能になり、それに伴い検診会場における検診車の占有面積が減って、来場者の駐車場確保、受診者が乗り込む検診車への煩雑な誘導業務、そしてランニングコストの改善も見込まれた。さらに検診車1台分の維持管理費、燃料費、高速道路使用費用、タイヤ等の消耗品費用が削減され、運転技師の減数にもなった。

撮影は、放射線技師が2名で担当するため、装置のトラブルが発生したり、一方の検査が混雑した場合などに際しては、経験値の高い技師の指導を受けることができるので、人材育成にも役立った。

### 【まとめ】

検診車の構造を改良したことにより、受診者が快適に検診を受け、スタッフも安心して実施することができ、コストダウンや運転技師の減数など運営費用も抑制された。

今後も多くの受診者が、快適・スムーズに検査を受けることができるよう検診車の整備を計っていきたい。